

海外子女教育だより

気球船



第208号

平成19年4月
文部科学省
初等中等教育局
国際教育課
編集・発行
初版発行昭和62年12月

海外子女教育総合HP: http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/main7_a2.htm

トピック

今後の英語教育と国際理解教育
～21世紀の日本を見据えて～
(第2回)

(注)

国際教育課長
手塚 義雅

(注) 本稿は「英語展望」誌の50周年記念号(2007年3月発行)に掲載したもので、英語教育のほか在外教育施設、国際理解教育に関する個人的見解を述べています。長文のため3回に分けて掲載します。今回は、第2回です。

2. 国際的に活躍している人材が乏しい日本

上記1.の前半部分で述べた国際的に活躍できる人材についてさらに言及してみたい。今後の日本を考えた場合、国際社会の新たなルールや秩序作りに参加できる人材が必要だと述べたが、残念ながら、現在の日本にはこのような国際的に活躍している人材が非常に乏しい。このことを国際機関を例にとって述べてみたい。

国連の加盟国は、その経済力に応じて、国連分担金を負担しており、日本の負担割合は、全加盟国中第2位の約20%となっている。これはアメリカを除く安保理常任理事国4ヶ国(中国、ロシア、イギリス、フランス)の負担割合の合計よりも大きな数字である。しかしながら、国連で働く日本人職員の割合は4.18%に過ぎない(これをアンダーリプレゼンテーションと呼んでいる)。さらに、国連の意思決定プロセスに参加する課長(director)以上の幹部職員になると2.06%に過ぎない(どちらの数字も2006年6月現在)。これは1億人以上の人口を有し、高等教育を受けた多くの優秀な人材を抱える日本の現状から考えると極端に低い数字と言わざるを得ない。

また、同じことをある大手多国籍企業の方から

聞いたことがある。この多国籍企業では世界をいくつかの地域に分けて、その地域内では売り上げが大きい国からその地域を管轄するトップを選ぶことになっているということである。しかし、アジア太平洋地区については、日本の売り上げが70%にも及ぶにもかかわらず、アジア太平洋地区のトップになった日本人は会社の長い歴史の中で一人しかいなかった由である。

その方に、「なぜ日本人はトップになれないのか」とこの大手多国籍企業の方に尋ねたところ、「まず英語力、それから自分を売り込むプレゼンテーション能力の欠如だ」という回答が返ってきた。

「なぜ国際的に活躍する人材の層に乏しいのか」に対する端的な答が、この多国籍企業の方の回答に表されていると思う。つまり言葉の問題以外に、広い意味でのコミュニケーション能力が不足していることだろう。相手の考えていること、自分の考えていることを理解し、その上で相手に理解してもらうために、どのような説得力のあるプレゼンテーションを行うか、駆け引きを展開するのか、というコミュニケーション能力が必要だということだろう。さらに自分の主張する内容が相手に感銘を与えるだけの深いものを持っていないといけない。

3. 国際的に活躍できる人材が必要な 英語力+

筆者は公務員になってからフランスでフランス語を研修した。外務省では研修した外国語によって、あの人はロシアンスクールだ、チャイナスクールだ・などと呼ぶことがある。この区分けに従えば私はフレンチスクールに属し、どちらかと言えば英語は苦手である。しかし、外交の仕事をしているとどうしてもこの苦手の英語を使わざるを得なくなる場面が多くなる。このことは外交だけでなく、他の様々な職種においても言えるかと思う

そこで、以下では(1)英語が突出した国際共通語となってきたことを述べ、更に、(2)英語力の向上は、スキル面の向上だけでなく、コミュニケーション能力の向上も考えなければならないこ

とを述べてみたい。

(1)英語が突出した国際共通語になってきている言語や文化の多様性を維持することは大事なことだと思う。私はフランス語を専攻したこともあり、フランス語や我々の母語である日本語が国際的にもっと通用する言語であればいいと思うし、英語が寡占的な言語でなければいいとも思う。しかし、いま英語が突出した国際共通語となっていることは、現実問題として認識する必要があるだろう。

ひとつの例を挙げてみたい。

ベトナム、ラオス、カンボジアは旧フランス植民地で以前はフランス語が広く使われていたが、これら3ヶ国はASEAN加盟後急速に英語を使うようになってきている(ASEANの公用語は英語)。このような英語化現象は世界的に生じている。現在、日本や中国などをメンバーとする東アジア共同体の設立について議論が盛んに行われているが、仮に東アジア共同体(あるいはそれに替わる組織)ができた場合には英語が公用語となる可能性は高い。少なくとも仕事上の言葉(working language)は英語となろう。(ちなみに、東アジア共同体の可能性について言えば、文化、宗教、経済体制、経済発展段階などが異なるアジアではEUのような国家主権の一部を移譲するような形での共同体の設立は予測できる将来においては難しく、特定分野での協力・連携を図る緩やかな組織体が現実的なものであろうと私は考えている)

なお、アジア太平洋地域の21ヶ国・地域がメンバーとなっているAPECの公用語も英語に統一されている(注3)。

このように、英語はまさに国際共通語としてのグローバル・スタンダードと言ってもいいような地位を占めるようになってきている。このような英語の寡占状態に反発もあるかもしれないが、他方、このような現実を踏まえた「英語の必要性」を認識し、英語教育を考えていくことが大事だろう。「行動計画」が平成15年に策定された背景にもこのような問題意識があったのだと思う。

次に、英語以外の言語学習についても述べておきたい。上で述べたように英語が突出した国際共通語になっていることから、外国語教育において英語が主流になることは現実への対応として仕

方がないと思うが、言語の多様性への尊重、二国間交流の重要性を考えれば、英語以外の言語教育も尊重されなければならないと思う。各言語は相互に対等な重要性を持つものでありヒエラルキー的な上下関係として捉えるべきものではない。

また、英語以外の外国語について考える際は、バイラテラル(二国間関係)、マルチラテラル(多国間関係)の観点から考える必要がある。すなわち、日中間、日韓間のようなバイラテラルの関係では、中国語、韓国語学習の必要性は増大するであろうが、右で述べたような、多国間で行われる会議や協議では国際共通語としての英語の比重はますます高まってくると考えている。

(注3) ちなみに、言語に関する考えはヨーロッパとアジアで異なるようである。ヨーロッパがすっぽり入ってしまう広大な中国では、広東語など北京語と大きく異なる言語がいくつもあるにもかかわらず、北京語が公用語として統一されているのに対し、ヨーロッパでは各言語がひしめき合い、同一国内でも、例えばスペイン語の地方言語であるカタロニア語がその独自性を主張するように、各言語の独自性が強く主張されることが多い。これは言語の文明論としても興味のあるところである。なお、EU(欧州連合)では、それぞれの国語が公用語として位置づけられているにもかかわらず(2007年1月1日現在、EU加盟国は27カ国、公用語は23言語)、EU事務局内では英語とフランス語がworking languageとして通常使われている。

(2)スキル面とコミュニケーション能力の向上

次に、英語の技術よりも伝達する内容やコミュニケーション能力が重要だということを述べてみたい。

ある国際会議での議論を思い出す(会議用語はもちろん英語である)。この会議では争点となるテーマに各国の利害が絡んで紛糾し、特に日本の立場が悪くなっていた。その時日本政府の代表が発言したのだが - - 正直言ってこの方の英語は流暢な英語とは決して言えず、日本訛りの強いジャパニーズ・イングリッシュであった - - 話す内容が、日本の立場を踏まえかつ各国の利害をうまく調整した大所高所からの意見で、ところどころにはユーモアも交えた素晴らしいものであった

ので、その発言から一気に会議の流れが変わった（逆にいくら流暢な英語を話しても、話す内容が浅薄なので、誰からも相手にされなかった発言もあった）。

このような場面に立ち会うと、単に英語の技術面の向上だけでなく、内容の伴った広い意味でのコミュニケーション能力の向上を英語教育の中に組み入れる必要があると感じる。

また、筆者が外交現場で経験することは、異なる文化・価値観の人たちと交渉するときは論理が優先するということだ。もちろん、根回し・人情・社交なども交渉の重要な要素になりうるが、基本となるのは論理と論理をぶつけ合うということである。そして痛感するのは、私たち日本人はこのような「論理をぶつけ合う議論・ディベート」に不慣れであり、意識的に訓練しないと身につかないということである。

ここで問題となるのは日本語の問題である。日本語はあいまいな言語であるとよく言われる。もちろん英語にもあいまいな表現はあるが、日本語ほどの多義的でファジーな面は少ない。例えば、「よろしく申し上げます」というような便利な日本語は英語に訳しにくい（注4）。私は、このような日本語のあいまいさを決して悪いものだとは考えていない。むしろ、日本語のファジーさは日本語の表現力に豊かさを加えるものだし、また円滑な人間関係を維持していく上でも有益なもので、大切な日本文化の一つだと考えている（注5）。しかし、異なる文化・価値観の人たちとコミュニケーションをする場合にはこのようなあいまいさは大きな障壁にもなる。

他方、日本語の持つ素晴らしいもう一つの側面は、「論理的で分析的な表現を用いて、高度に文化的な表現ができる言語でもある」ということである。外国に行くと日本では大学教育を日本語で行っていると言うと驚かれることがある。大学などの高等教育を自国語で行える国・地域はそう多くはないと言えるだろう。また、日本における翻訳出版は相当な数に上り、海外の高度な文化を日本語に翻訳して紹介している。このようなことを考えると、日本語は文化的に高度な概念を表現できる語彙を多く持っているし、また高度に論理的な思考を表現できる言語であると言えると思う。

このような「厳密な日本語」は意識的に使わな

いとできないことであるが、例えば、あるテーマに関し、賛成派と反対派が論理的・分析的に議論する日本語によるディベートなどは、このようなコミュニケーション能力の育成に役立つと思う。それがひいては実践的な英語力の向上に役にたつとも考える。このような意味で、「厳密な日本語を使ったディベート」は教科横断的なものであり、また、英語を学習することが論理力、分析力の向上につながるという相互補完的な学力の向上に資することになると考える。

「行動計画」ではこのような問題意識に基づき、実践的なコミュニケーション能力の向上についても指摘されているし、また、平成11年3月の学習指導要領では、言語の実際の使用場面を想定した場を教室内に持ち込み、幅広い話題について、情報や考えなどを英語で発表したり、話し合ったりする能力を伸ばすとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てるなどとしている。

（注4）荒木博之氏が指摘しているように「けなげ」や「いじらしい」という言葉には多義的な意味合いが込められており、このような日本語に一对一で対応する英単語はないだろう。英語などのヨーロッパ言語は一義的で論理性の強い言葉なので、多義的でファジーな日本語とは一对一で対応できないためだ（『日本語が見えると英語も見える』（中公新書））。

荒木氏は「けなげ」という言葉には、「賞賛すべき」と言う意味合いの中に、「弱小性」、「逆境性」、「忍耐性」、「勤勉性」という要素が多義的に付加されており、これを英語で表現するには単に「admirable」や「laudable」では不十分で、「admirably diligent and hardworking under adversity」という訳を試みられている（同書15～18ページ）。

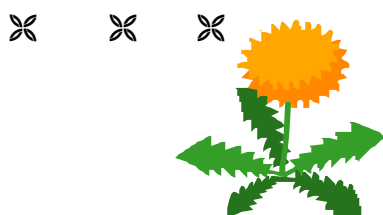
また、荒木氏は「インド・ヨーロッパ系言語は論理的、分析的に切って取ってゆく、言うなれば要素還元主義である。これに対して日本語は複雑系のまま切り取ってゆく」（同書12ページ）と述べているが、まことに当を得ている指摘だと思う。しかし、日本語にはこのような多義的でファジーな側面の他に、法律表現のような厳密・論理的な表現にも十分耐えられるだけの能力を備えた側面もあり、英語力の向上のためには、このような「厳密・論理的な日本語」による訓練も相互補完的に有益だと思う。

また、私は「すみません (Excuse me)」という表現を使ったために日本語とヨーロッパ言語の差異を痛感した以下のような経験がある。

私は公務員になってからフランスで、フランス語を研修した。この研修期間中、フランス人とある利害関係に絡んで大変な議論をしたことがある。どちらも感情的になってきたので、私は、「今はお互いに感情的になっているが、私としてはあなたと敵対するつもりはありませんよ」ということを相手に伝えたいと考え、「Excusez-moi (英語ではExcuse meであるが)」と言ったとたん、相手は「それみたことか。おまえは自分が悪いと認めたな」と解釈し、私を猛烈に攻め立ててきたことがある。日本では、「すみません」という表現を場面に応じ自分が悪いと思っていなくても使用する場合がある。この場合の「すみません」は、自分が悪いと思っていなくても、「私はあなたの味方です。対立する意図はありませんよ」という暗黙の意思表示をするための表現方法でもある。しかし、英語を含むヨーロッパ言語の「Excuse me」にはこのような二重性はない。あるのは「私が悪かった。すみません」という一義的な意味しかない。ここから以上のような意思疎通の問題が生じたわけだが、日本語とヨーロッパ言語の違い、あるいは日本文化と欧米文化の違いを痛感した次第である。

(注5) 最近の日本の若者の話し言葉が乱れていると言われるが、私は必ずしもそうは考えていない。彼らの話し言葉をよく聞いていると、この「あいまいさ」、ファジーな側面を上手に使って新しい表現を創っているようである。この点では、彼らも日本語の正統な継承者と言えるのではないか。むしろ危惧されるのは、「厳密・論理的な日本語」を使う訓練が足りず、大学生のような高学歴の者でさえ、論理的・分析的な思考ができなくなっていることである。

(第3回に続く)



事務連絡

国際教育課の体制について

庶務・助成係長 荒井 忠行

国際教育課の各係の所掌についてお知らせします。資料や情報の入手の際などに、お役立てください。

庶務・助成係

課の文書、人事、福利厚生、予算及び経理に関すること。

海外子女教育振興財団(教材整備、教育相談、通信教育への補助)等への助成に関すること。
海外子女用教科書に関すること。等

企画調査係

課の施策に関する企画立案、調査及び総合調整(国会等)に関すること。

課の所管に係る法令に関すること。

所管法人の監督に関すること。

在外教育施設の認定・新設に関すること。

私立在外教育施設に関すること。

在外教育施設指導係

在外教育施設の管理運営に関すること(教職員派遣係及び企画調査係に属することを除く)。

在外教育施設の教育指導に関すること。

在外教育施設の安全対策に関すること。

在外教育施設に対する調査(教育課程実施状況調査等)に関すること。

在外教育施設の巡回指導に関すること。

海外子女教育研究協力校に関すること。

全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会に関すること。

教職員派遣係

在外教育施設教員派遣事業に関すること(教職員給与係に属することを除く)。

国際交流ディレクター派遣事業に関すること(教職員給与係に属することを除く)。

国際教育文化交流推進校の指定に関すること。

派遣教員等の服務に関すること。

教職員給与係

在外教育施設派遣教員、国際交流ディレクター及び外国教育施設日本語指導教員の手当・旅

費及び福利厚生に関すること

適応・日本語指導係

- ・海外から帰国した児童生徒についての施策に関すること。
- ・日本語指導が必要な外国人児童生徒についての施策に関すること
- ・中国等帰国児童生徒についての施策に関すること。

国際理解教育第一係

- ・初等中等教育における国際理解教育に関すること。
- ・初等中等教育における英語以外の外国語教育の振興に関すること。
- ・高校生留学の振興に関すること。
- ・初等中等教育に関する国際交流の振興に関すること。

国際理解教育第二係

- ・初等中等教育における英語教育の推進に関すること。
- ・語学指導等を行う外国青年招致事業(JET)に関すること。
- ・外国教育施設日本語指導教員派遣事業(REX)に関すること(教職員給与係に属することを除く)。



平成19年度在外教育施設国際交流ディレクター・派遣教員委嘱辞令交付式

教職員派遣係 西尾 佐枝子

平成19年度在外教育施設国際交流ディレクター派遣教員委嘱辞令交付式を、管理職については3月13日に、国際交流ディレクター及び教諭については4月6日に行いました。

今年度の赴任者数は、校長30名、教頭17名、教諭394名、そして国際交流ディレクター4名の計445名となりました。

管理職(3月13日)については手塚国際教育課長から、教諭(4月6日)については手塚国際教育課長、金子国際教育課長補佐、坂本海外子女教育専門官から、文部科学大臣の委嘱辞令を一人一人にお渡した後、先生方は各地の赴任校へと旅立たれました。

今後の先生方のご活躍を期待いたしますとともに、派遣期間満了時には大きな成果を携えて、随伴されたご家族共々元気にご帰国されますことを心より祈念いたします。

各地の在外教育施設に既にご勤務いただいております先生方におかれましては、新しいお仲間や新入学生をお迎えされ、責務が大きくなり大変かと存じますが、今後ともよろしくお願いいたします。



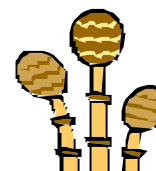
平成19年度在外教育施設国際交流ディレクターの派遣

教職員派遣係 西尾 佐枝子

平成19年度に新たに派遣されます在外教育施設国際交流ディレクターが、各赴任先へ出発されました。ディレクターの赴任先及び氏名は次のとおりです。

ディレクターの方々におかれては、新しい赴任先での職務等についてご高配をお願いいたしますとともに、一層のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

- ソウル日本人学校 : 深野 正一 氏
- 香港日本人学校 : 小宮 由紀 氏
- ローマ日本人学校 : 大澤 麻里子 氏
- 北京日本人学校 : 酒井 正人 氏



人事異動のお知らせ

庶務・助成係長 荒井 忠行
このたび、4月 1日付で人事異動がありましたのでお知らせいたします。

(転出)

石川 良二 課長補佐
日本スポーツ振興センター
スポーツ振興推進役

池田 三喜男 国際理解教育専門官
初等中等教育企画課専門官
(併)内閣官房副長官補付
内閣官房拉致問題対策本部事務局総合調整室室員

荒木 昌美 教職員給与係長
福井大学学務部入試課長

吉田 梓 企画調査係
科学技術・学術政策局基盤政策課専門職

牧浦 倫子 教職員派遣係
東京学芸大学

伊藤 都章 国際理解教育第一係
北海道教育委員会

日比生 哲也 国際理解教育第二係
福岡県教育委員会

園田 直美 教職員給与係
退職

(転入)

坂本 淳一 筑波大学財務部財務企画課長
海外子女教育専門官

都築 智 筑波大学総務・企画部国際課長
国際理解教育専門官

飯塚 康 初等中等教育企画課専門職
教職員給与係長

松永 佳子 研究開発局参事官付
企画調査係

西尾 佐枝子 東京学芸大学
教職員派遣係

野村 友理 岐阜大学
国際理解教育第一係

池長 嘉晴 福岡県教育委員会
国際理解教育第二係

近田 由紀子 浜松市教育委員会
適応・日本語指導係

増田 雄護 大臣官房総務課法令審議室
教職員給与係

(課内異動)

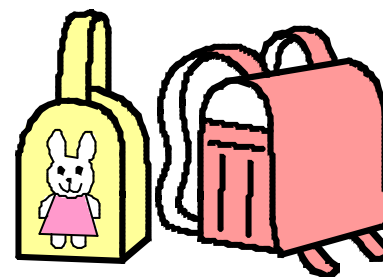
金子 泰久 海外子女教育専門官
課長補佐

笠原 政行 教職員派遣係
教職員給与係

臼田 亜紀子 適応・日本語指導係
在外教育施設指導係

川窪 百合子 在外教育施設指導係
適応・日本語指導係

小林 優一 企画調査係
教職員派遣係



退任者挨拶
(肩書は退任時のものです。)

課長補佐 石川 良二

皆様、大変、お世話になり、ありがとうございます。4月1日付けで、日本スポーツ振興センターに勤務することとなりました。

国際教育課での勤務は、平成17年10月1日から、1年半の充実した勤務でした。思えば、昭和63年から5年間、当時の海外子女教育(室)課に勤務した経験から、もう一度、海外子女教育の職務に携わりたいという希望を抱いていたところ、やっと念願がかなったの勤務でした。

日本人学校等に勤務している(勤務されていた)皆様との思い出として、印象に残る主なものの中に校長研究協議会への出席と南西アジアへの出張があります。校長研究協議会では、各在外教育施設での特色ある取り組みや、校長先生をはじめ、現地の学校関係者の方々から、直接、お話を伺う機会を得ました。特に、ヨハネスブルグの校長研究協議会では、(多くの配偶者に取り囲まれるなどの予期せぬ状況の中で、)貴重なご意見を頂きました。具体的には、派遣前の内定者研修会・同配偶者研修会の研修内容などについて、積極的なご意見等を頂戴するなどしました(他の地区でも同様な課題・認識があったようです)。頂戴したご意見の多くをその後の施策に反映させていただきました。

また、治安面や生活環境の厳しい南西アジアにあるいくつかの日本人学校を訪問した際には、校長先生をはじめ派遣教員、現地採用の先生方が一丸となって日本人学校の安全対策を講じ、そこに通う子どものために最善を尽くす姿勢・取り組みには、頭が下がりました。派遣教員の各住居を訪問させていただいた際は、セキュリティ対応や飲料水等の確保等の工夫を現地で把握させていただきました。また、訪問先でご配慮いただいた貴重なおにぎり等の提供は、忘れることはできない思い出です。改めてこの紙面を借りて御礼申し上げます。

平成18年4月15日現在、全世界には約5万8千人の学齢期の子どもがおり、そのうち約1万9千人(50か国・地域)が日本人学校へ、1万6千人(53か国)が補習授業校に通っています。各在外教育施設では、関係者が区々の課題に対応されて、ご苦労されているところが多いと思います。特

に、今後の大きな課題としては、現地校のみに通う日本人の子どもに対する教育相談等の支援、(企業駐在員の家族と共に数年で日本に帰国する子ども以外の)多様な子どもたちに対する教育指導がありますが、関係者の皆様には積極的に頑張ってくださいと思います。

最後に、私の新しい職場のホームページは、<http://www.naash.go.jp/index.html>です。本当にお世話になりました。

教職員給与係長 荒木 昌美

4月1日付けで、国立大学法人福井大学に異動いたしました。

国際教育課在職中は、たいへんお世話になりました。ありがとうございます。

教職員給与係の仕事は、直接、先生方の生活に関わることがほとんどだったため、時には辛いことを申し上げたこともあったかと思いますが、職務上のことですので、どうかお許してください。とはいえ、いろいろと至らない点も多かったのではないかと思います。この場をお借りして、お詫び申し上げます。

現在は、入学試験を担当しております。すべてうまく運んで当たり前の仕事ですので、なかなかプレッシャーも重いものがありますが、腹を括ってやるしかないと思っています。

宣伝になりますが、国立大学法人福井大学のURLを... <http://www.fukui-u.ac.jp/> です。

最後になりましたが、海外で頑張っている先生方、そして国際教育課の皆様のご活躍を、福井の地より祈っております。では、お体にお気をつけて。

企画調査係 吉田 梓

4月1日付けで科学技術・学術政策局基盤政策課専門職を拝命しました。国際教育課在職中は企画調査係で仕事をさせていただきました。日本人学校の認定業務を担当しており、蘇州日本人学校及びブダペスト日本人学校の認定に関わることができました。また、マレーシアやタイへの出張の際には、クアラルンプール日本人学校やバンコク日本人学校の現状視察を行う機会に恵

まれ、子どもたちが学ぶ環境づくりの審査に関わる責任の重さとやりがいを実感しました。

今度は、科学技術系人材の育成のための仕事に携わることになります。これまで学んだことを最大限活用し、頑張っていきたいと考えています。最後になりましたが、海外子女教育に携わる多くの皆様には大変お世話になりました。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。

またどこかでお会いできる日を楽しみにしております。

教職員派遣係 牧浦 倫子

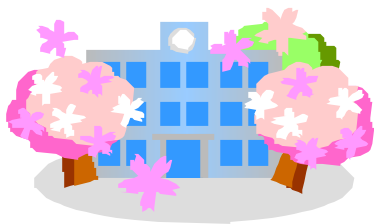
文部科学省での研修期間を終えて、4月から東京学芸大学に戻り 総務部企画課社会連携係にて勤務しております。1年間という短い期間でしたが、国際教育課で過ごした時間を振り返ってみると、1年とは思えないほど多くの貴重な経験をさせていただきました。不慣れなことばかりで、いろいろと迷惑をおかけしてしまった在外教育施設の先生方、都道府県教育委員会等のご担当者の方々、国際教育課の皆様、この場をお借りしてお礼、お詫び申し上げます。本当にありがとうございました。

教職員給与係 園田 直美

この度、3月を持ちまして退職することとなりました。

平成16年4月より、3年間教職員給与係として世界各国にいらっしゃる先生方とメール等でお話させていただき、大変貴重な経験をさせていただきました。

社会人として初めて働いた所が、国際教育課であり、至らないところも多々あったと思いますが、国際教育課の皆様及び先生方のご協力もあり、楽しく勤めることができました。この場を借りましてお礼申し上げます、ありがとうございました。



就任者挨拶

国際教育課課長補佐 金子 泰久

平成19年4月1日付で海外子女教育専門官から課長補佐に異動しました金子と申します。2月と短い期間ではありましたが、海外子女教育専門官の時は大変お世話になりました。課長補佐となり担当が変わりますが、引き続き、日本人学校、補習授業校の発展・充実のため、また、派遣教員の先生方が在勤地で安心して子供たちのために力を発揮できるよう微力ではありますが、誠心誠意がんばりますので、何卒よろしく申し上げます。

海外子女教育専門官 坂本 淳一

4月1日付けで、当課海外子女教育専門官を拝命しました坂本淳一と申します。

平成3年11月から平成10年12月まで7年間、当課の前身の海外子女教育課で外国人子女教育・海外子女教育に携わっておりましたので、ほぼ10年ぶりの古巣復帰ということになります。

この3月までは、筑波大学の財務企画課長という立場でしたが、着任1週間にしてあっという間に派遣の実務に巻き込まれたという感じで、多少の土地勘はあるものの、派遣・給与の業務ははじめてということもあり、じっくり感慨にふける余裕もなく慌しい日々を過ごしております。

もとより赴任の準備に追われ、到着後すぐに新学期の準備等々に追われる派遣1年目の先生方の「慌しさ」とは比べものにもなりません。微力ながら少しでも皆様のお役に立てるようがんばっていきたく思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

国際理解教育専門官 都築 智

4月1日付けで国際理解教育専門官を拝命しました。

前職は筑波大学で国際課長を務めておりました。国際交流関係の仕事は文部科学省においても経験させていただいておりますが、初等中等教育の仕事は初めてです。直接在外教育施設を担当してはおりませんが、国内の国際理解に関して日々最前線でご活躍いただいております先生

方からご意見は大変貴重なものであると考えておりますので、お気づきの点がございましたら、kokukyoi@mext.gp.jp 宛ご遠慮なく連絡いただければ幸いです。

教職員給与係長 飯塚 康

この4月より 教職員給与係長になりました飯塚です。

配置換えになって早々、多様な業務に巻き込まれ、慣れる、慣れないという問題以前に業務をこなすことを求められました。

国際教育業務については、まだ知識不足ではありますが、日本人学校に勤務される教員の方々の力になれるよう、努力して参りたいと考えておりますので、今後よろしくお願いたします。

企画調査係 松永 佳子

4月1日付で国際教育課企画調査係に参りました松永佳子と申します。

私自身は国内育ちですが、祖父がかつて在外派遣教員だったこともあり、学生時代に一度祖父の勤務していた日本人学校を訪れたことがあります。今回着任するにあたりあの日本人学校の緑あふれるのびやかな風景、遠く離れた地において日本人として生きる方々の姿等を想い返すと、これから自分の行う日々の業務一つ一つがいかに重責であるかを実感いたします。

明るく元気に前向きに！だけが取り柄ですが、精一杯頑張りますので宜しくお願い申し上げます。

教職員派遣係 小林 優一

4月1日付で企画調査係より教職員派遣係に配置換えとなりました小林優一と申します。

まだ入省して半年、何がなんだか分からないまま当係にいるというのが正直な感想です。当係の仕事は、今までの仕事とはまったく違っており、至らない点も多々あるかと思いますが、一生懸命頑張りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願致します。

教職員派遣係 西尾 佐枝子

平成19年4月1日付で東京学芸大学より教職員派遣係に参りました西尾佐枝子と申します。東京学芸大学には附属の小・中・高等学校等が合計13校あります。3月までは、そのうちのひとつ、世田谷にある附属高校で勤務していました。

私は小学校のころ、父の赴任に伴って、シンガポール、香港に住んでいたこともあり、その当時日本人学校に通っていたので、現在この仕事に就いたのも何かの縁かと思えます。

新しい環境に不安と緊張でいっぱいですが、皆様のお役に立てるよう精進していきたいと思えますので、至らない点もあるかと思いますが、ご指導のほど、よろしくお願いたします。

在外教育施設指導係 臼田 亜紀子

平成19年4月1日付けで適応・日本語指導係から、在外教育施設指導係に異動になりました臼田亜紀子と申します。

適応・日本語指導係では、2年半にわたり国内の外国人児童生徒及び帰国児童生徒教育について担当させていただきました。

海外子女教育については、これまでの業務と関連するところもありますが、初めて携わることになります。真摯に取り組んでまいり所存ですので、よろしくお願いたします。

国際理解教育第一係 野村 友里

平成19年4月1日付けで岐阜大学から研修生として、国際理解教育第一係に参りました野村友里と申します。

岐阜大学では、応用生物科学部連合大学院事務室に所属し、連合農学研究科の事務全般を担当していました。

まだ、こちらに来てから日が浅く、自分が何をすべきかも手探り状態ですので、皆様にはご迷惑をかけることも多いと思えますが、どうかよろしくご指導願います。

国際理解教育第二係 池長 嘉晴

はじめまして。福岡から参りました池長嘉晴と申します。この春まで高校で教鞭をとっておりまして、3月に卒業生を出したばかりです。

今はSELHiとJETプログラムを中心に、仕事をさせてもらっています。慣れない仕事で、周囲に大変ご迷惑をかけているところですが、しっかり頑張りたいと思います。

よろしくお祈りいたします。

適応・日本語指導係 近田 由紀子

4月1日付で、適応・日本語指導係に着任しました。近田由紀子と申します。

3月までは、静岡県浜松市の小学校で、外国人の子どもたちを教えていました。「分かった!」と、うれしそうな笑顔を見せてくれるときが最高でした。

これまで、外国人の子どもたちから本当に大切なことを教えられてきました。これからは、海外で御活躍の皆様の声から、多くのことを学んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします。

教職員給与係 増田 雄護

4月1日付けにて、大臣官房総務課法令審議室より初等中等教育局国際教育課教職員給与係へ配置換えとなりました。

給与関係の仕事に熟達しているわけではありませんが、いろいろと学びながら精一杯頑張っていく所存です。

レフ・ニコライビッチ・トレストイの言葉に、
『最上の幸福は、一年の終わりにおいて、年頭における自分よりもよくなったと感ずることである。』
というものがあります。

今年度末に振り返り、本日よりも成長できたと思える1年間にしたいと思っています。
どうぞよろしくお祈りいたします。

海外学校説明会・相談会の開催について

海外子女教育振興財団

海外子女教育振興財団では、毎年、海外(5月)と国内(7月)において「学校説明会・相談会」を開催しております。

会場では、帰国子女受け入れ校の担当者が、各校の指導方針・授業・課外活動などの特色や、選考方法・時期・応募資格などについて説明を行い、お子さんや保護者からの具体的な質問にもお答えいたします。

2007年度は、海外では次の3地域(9都市)にて行い、各地域とも、国内の帰国子女受入校である中学校・高等学校6~7が参加いたします。

日時と会場は次のとおりです。

欧州地域

5月9日(水) 13:30~17:00

アムステルダム日本人学校

・ 11日(金) 12:30~18:00

ロンドン日本人学校

・ 12日(土) 12:30~17:30

ロンドン補習授業校

・ 14日(月) 12:20~15:30

ブラッセル日本人学校

北米地域

5月19日(土) 9:50~14:45

サンフランシスコ補習授業校

サンフランシスコ校

・ 21日(月) 10:00~16:00

ホリデーイン トランス(ロサンゼルス市内)

・ 23日(水) 9:00~12:30

クラウンプラザ ポートランド
(ポートランド市内)

アジア地域

5月30日(水) 13:30~17:00

香港日本人学校 中学部

6月1日(金) 10:00~15:00

マニラ日本人学校

・ 3日(日) 9:30~14:00

バンコク日本人学校

詳細は財団ホームページを参照ください。

<http://www.joes.or.jp/>

(財)海外子女教育振興財団 情報サービス
チーム

E-mail sanka@joes.or.jp

TEL +81-3-4330-1349

FAX +81-3-4330-1355



国際教育課「気球船」編集部
本誌へのご意見、ご感想をお待ちして
います。下記までご連絡ください。
連絡先 : E-mail: kokukyo@mext.go.jp
こちらも随時募集中です。
投稿記事
(原稿料は出ません。ご了承ください。)
新規配信配信依頼



編集後記

海外子女教育に携わっていると、メディアなどに登場している人が、日本人学校や補習授業校に在籍していたことがあるという情報に反応してまいります。

芸能人に限った印象では、以前ほど海外での経験を前面に出すことがないように思います。

それだけ、海外での経験が身近になってきたのかなと思っていたら、この4月から国際教育課にも在外教育施設にかかわりのある方が来ました。

身近なところで、国際化が進んでいることを実感し、国際教育が時代の必然であることを確認した次第です。

新年度になりました。今年度も「気球船」をよろしく願います。

(N)

～ 4月号の内容 ～

トピック _____ 1
 今後の英語教育と国際理解教育 -----1
 国際教育課長 手塚 義雅

事務連絡 _____ 4
 国際教育課の体制について -----4
 庶務・助成係長 荒井 忠行

平成19年度在外教育施設
 国際交流ディレクター・
 派遣教員委嘱辞令交付式 -----5
 教職員派遣係 西尾 佐枝子

平成19年度在外教育施設
 国際交流ディレクターの派遣 -----5
 教職員派遣係 西尾 佐枝子

人事異動のお知らせ -----6
 庶務・助成係長 荒井 忠行

・退任者挨拶 -----7
 ・就任者挨拶 -----8

海外学校説明会・相談会の
 開催について -----10
 海外子女教育振興財団

